

長野市芋井地区における水害時の危険箇所と避難に関する課題の抽出

平成 29 年 2 月 湯本 菜央

要旨

目的

近年、局地的大雨や集中豪雨は増加傾向にあり、被害が全国的にみられる。このことから水害対策については、地域を問わず意識を持たなければならないといえる。本研究では、中山間地域で水害が発生する可能性があることをそこに住む人に認知してもらうことを最終目的とし、そのための基礎資料の 1 つとして、水害時に危険となる箇所と住民の避難に関する課題の抽出を行った。

方法

国土地理院発行の地形図（2 万 5000 分の 1）と土壤図を利用し、等高線と流路形状・合水線・道路上の水の流れ・土壌と地質の 4 点から水害危険箇所を抽出した。避難に関する課題は、実際に対象地域へ行き、その土地を歩いて気づいたことや、地域住民から話を聞いて感じたことから抽出した。

結果

本研究で得られた結果を以下に示す。

（水害時の危険箇所）

- ・芋井地区の南側に水害危険箇所が集中している。

（避難に関する課題）

- ・避難所までの移動距離が長く、徒歩での避難が困難である。
- ・街灯が少ないので、夜間に水害が発生した場合に避難が困難である。
- ・側溝に枝葉が溜まることにより、水が流れにくくなっている場所がある。このような場所では、豪雨時に側溝から水が溢れ、道路が冠水する可能性がある。その場合は、避難が困難になる。

指導教員 豊田 政史 助教